

お役にたってうれしい!



ご主人の転勤で、北海道 旭川に移り住んだ怡土さん。それを機に美容師になろうと決意。学校に通い国家資格も取得。以降33年間美容師として働いてこられました。時々、入浴後のみなさんの整髪をしていただいています。(かげの声/ドライヤーの持ち方が、さすがプロですね)



毎日使うおしぼりや体操で使うタオルなどをたたんだり、洗濯物干しなどをお手伝いいただき、ありがとうございます。
また、座布団や足載せをほかの方の分まで、いつも片付けていただきありがとうございます。

大津町社会福祉協議会

デイサービス

発行
大津町
社会福祉協議会
大津町室 151-1
☎293-2949

わたしの宝もの10

民謡や三味線が好きな両親のもとに七人兄弟(四女三男)の長女として生まれた山本セイ子さん。ものごころついたとき

にはそれらの音色が身体に染みこんでいました。十六、七歳の頃、お母さんのすすめで和裁の技術を習得しますが、家に入りにしていた役者さんから芸事の手ほどきを受けることになり、益々好きになっていきました。しかし二十歳の時、お母さんが三十九歳の若さで亡くなります。それからはお父さんと農業に従事し、長女として弟妹の面倒をみることに…。

それから二年後、一つ年下の、親の決めた人「萬さん」と結婚。やがてお父さんも五十二歳で亡くなり、セイ子さんはご主人と二人三脚で農業を続けます。

五十歳の時、持ち前の器用さと和裁の技術をかわれ、ふとん店に勤めに出ることになりました。といっても真木から大津まで通う手段がありません。ご主人が農業の傍ら、毎日車で送迎をしてくれ



たといいます。
朝と夕ばかりではなく、勤務時間後、本格的に習い始めた民謡や踊り、三味線、習字、墨絵などの習い事の送迎も、ずっとしてくれたのだそうです。

「セイ子さんが今日あるとは萬さんのおかげたい!」と親友に言われて、
「そぎゃんたい! 私の宝ものは 萬さん、たい。」
ご主人も亡くなって二十余年。三味線や民謡、踊りは今もご主人と共にセイ子さんを支え続けてくれているようです。